学校番号	T1206

令和８年度　　工業科

教科	工業	科目	自動車実習Ｃ	単位数	３単位	年次	２・３・４年次
使用教科書	「自動車整備」　（実教出版）						
副教材等	「基礎自動車工学」　（日本自動車整備振興会連合会）						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

自動車とは現代に生きる我々にとって最も身近な交通手段のひとつであり、欠かせないものである。
自動車実習の講座では基礎的な分解・組立実習を通してエンジンや装置の仕組みや働きを動作として体感し、自動車整備への興味・関心高めるとともに、自動車整備の基礎的な知識や技術を学習する。基礎的な金属加工方法を体感し、理解の深化を図るとともに、安全な作業法を身につけさせる。

本講座は後に学習する自動車実習Ａおよび自動車実習Ｂをセットで履修し、学習することを前提とした講座となる。
授業は自動車工場を中心に行うが、適宜その他の工場で行うこともあるので教科担当の指示を良く聞いて授業に参加すること。

評価は出欠状況、学習態度、実習成果、レポートなどで総合的に評価する。

２ 学習の到達目標

自動車整備に必要な構造や動作原理を学習した後、実際の自動車及びエンジン・装置を用いて分解・整備作業を行い、技能と知識の理解を求める。
（１）自動車について構造と機能を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身につける。
（２）自動車に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身につける。
（３）自動車の付加価値を高める力の向上をめざして自ら学び、自動車産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につける。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識・観察の技能を習得し、実際に活用できる能力と態度を身につけている。	自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識・技術に課題等を見つけ出し、自ら思考・判断し、創意工夫して課題解決する能力が身についている。	自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識や技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に探究するとともに、学びに向かう力を身につけようとしている。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述 レポート、発表 課題提出　等	学習状況の観察 ワークシートの記述 レポート、発表 課題提出　等	学習状況の観察 ワークシートの記述 レポート、発表 課題提出　等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に五段階評価にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	ブレーキの分解・組立	実習安全 ドラム式油圧ブレーキ ディスク式油圧ブレーキ エア式ブレーキ 制動倍力装置 パーキングブレーキ	A:自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識・観察の技能を習得し、実際に活用できる能力と態度を身につけている。 B:自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識・技術に課題等を見つけ出し、自ら思考・判断し、創意工夫して課題解決する能力が身についている。 C:自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識や技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に探究するとともに、学びに向かう力が身についている。	実習状況 レポート 観察　等	実習状況 レポート 観察　等	実習状況 レポート 観察　等
後期	金属加工（溶接・研削加工）	ガス溶接 ガス切断 アーク溶接 スポット溶接 はんだ付け 円筒研削 平面研削 ボーリングとホーニング	A:自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識・観察の技能を習得し、実際に活用できる能力と態度を身につけている。 B:自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識・技術に課題等を見つけ出し、自ら思考・判断し、創意工夫して課題解決する能力が身についている。 C:自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識や技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に探究するとともに、学びに向かう力が身についている。	実習状況 レポート 観察　等	実習状況 レポート 観察　等	実習状況 レポート 観察　等

※ 表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
c：技能　　d：知識・理解